



Campus News Rikkyo Niiza

ホームページアドレス <http://niiza.rikkyo.ac.jp>

〈No.58〉

特集 自由選択科目と卒業研究論文

今号では、「自由選択科目」と「卒業研究論文」について紹介します。

本校の教育目標の1つである「テーマを持って真理を探究する力を育てる」ための特徴的なカリキュラムになります。



〈卒業研究論文集〉



〈自由選択科目 授業〉

自由選択科目

自由選択科目について

自由選択科目は、1970年度高校3年生からはじまり現在に至っています。本校のカリキュラムの特色である、自由で多様な選択制の目玉ともなっている講座です。すべての教科の複数の講座から選択するもので、2時間連続の講座（2単位）となっています。現在、高2では水曜日3・4限、高3では月～土曜日1・2限におかれています。2012年度は、高2で18講座、高3で78講座開講しています。高3では、月～土曜日のうち最低3講座

（6単位）履修する必要があり、すべての曜日で履修すると6講座（12単位）とすることができます。ただし、卒論指導のみの講座である「卒論演習」をとった場合は、それ以外に最低3講座履修する必要があります。なお、2012年度高校入学生（現高1）からは、高3にのみ置かれて、最低3講座、最多5講座履修することになります。

その内容も多様で、ある文学作品や歴史的事実をより深く研究する講座、必修科目では扱わないような高度な内容の講座、基礎を含めた学力補強に主眼が置か

れた講座、他大学受験を意識した講座などです。本校の教員の多様な専門分野を生かした講座を多く設定して、生徒の皆さんが大学の専門研究につながるような学習ができるよう意識しています。中には、高校と大学の連携として、立教大学の教員による講座も設けられています。また自由選択科目の講座では、担当教員が卒業研究論文の主査となり、論文作成の指導も行っています。自由選択科目から、生徒の皆さんが学習・研究の意欲を高め、大学で活発な研究を行うことを期待しています。 教務部長 丸山 信二

2012年度 自由選択科目一覧

〔国語〕

平安時代の闇を解く
出版文化を考える
古典と戯れる
短歌の史的・研究と創作
近代小説を読む

〔地歴・公民〕

地理学演習
沖縄史
国際関係の研究
世界史ⅡB
世界史ⅡC
京都論
日本史演習
歳時記の研究
日本経済
憲法を読む
倫理・政経演習
社会と統計

〔数学〕

離散数学
数学Ⅲα(4単位)
数学Ⅲβ(4単位)
総合数学演習

〔理科〕

解剖(初級)
生物Ⅱ
物理Ⅱ(4単位)
DNAと進化
日系サイエンスを読む
サイエンスリテラシー
化学Ⅱ(4単位)
私たちの地球A
私たちの地球B
分子生物学入門
『測る』と分子が見えてくる!

〔保健体育〕

スポーツ・バイオメカニクス
スポーツの歴史

〔外国語〕

英語表現・作文
受験・総合英語演習
映画の英語
英語ディベート入門
英語の根底
日本文学を英語で読む
マスメディア英会話
旅行に役立つ英会話
英会話上級A
フランス語初級A
フランス語中級
ドイツ語初級A
ドイツ語中級
中国語初級A
中国語中級

〔外国語〕

スペイン語
朝鮮語
イタリア語
ロシア語
アラビア語
ラテン語

〔芸術〕

美術
立体造形
書道表現演習
ハーモニー演習

〔家庭〕

調理科学
食物学
日本の伝統手芸
現代家族を考える

〔情報〕

3D-CGの研究
情報音楽入門
Web作成基礎入門編
情報とコミュニケーション
プログラミング入門

〔宗教〕

聖書と人権
西洋史Ⅰ
イギリス史

卒論演習 7講座

生徒に聞きました

自由選択科目(C選)と卒業研究論文について、高校3年生の小曾根将人君(以下:小)と新井達也君(以下:新)にお話を伺いました。

一まず2人はどのような講座を選択したのですか?

小) 親が書道の先生をやっている影響もあって、漠然と卒論は書道のことについて書こうと思っていたので、まず「書道表現演習」を選択しました。あとは、卒論を書き進めるために卒論演習と得意な数学の講座を取りました。

新) 僕は高2の時の選択科目で「食物学Ⅰ」を受講していて、料理について興味があったので、「調理科学」と「食物学」を選択しました。その他は、卒論演習とガイダンスの時に面白そうだった講座を取りました。



一2人とも卒論演習をとっていますが?

新) 先輩から、卒論ってなかなか進まないけど毎週2時間C選択の中でやることでメリハリがつくし、進行具合もチェックしてもらえるからいいよと薦められて取りました。

一実際受講してみてどうですか?

小) 中学では絶対できない専門的なことを学べるのでいいですね。「書道表現演習」の授業では、今は篆刻を作っていたりしているのですが、そういうこともできるのが魅力です。最初は卒論目当てでしたが、今は卒論の事以外でも取って良かったと思っています。

新) 料理が好きなので、家庭科の選択を2つ取ったことで調理実習が頻繁にできることが楽しいです。座学もありますが、健康に興味があるので、バランスのよい食事のことなども勉強になります。やはりC選択科目は興味のあるものを選べるので、飽きることなく楽しく受講できます。

一さて、卒論のことについて伺いますが、テーマはもう決まりましたか?

小) まだ資料集めの段階ですね。テーマもまだはっきりと決まっていないのですが、現代の若者が意識している文字について、とか文字によってどういう効果をもたらすかという内容にしようかなと思っています。まだ漠然としています。

新) 僕は、犯罪心理学について書いてみたいと思っています、はっきりとは無いのですが、テーマは定まったので、書きながら資料集めをしているという状況です。

一どのようにテーマを決めているのですか?

小) 最初は書道について書こうと思っていましたが、書道といっても広いので、どうテーマを決めるか悩んでいました。先生との相談で「今の若い人たちは手書きでどういう文字を書くのか」と話すうちに、雑誌タイトルなどの字体がなぜうけるのかという方向に興味を持ち始めたので、今はそのような方向で論文を書くことを考えています。

新) 僕は、心理学に興味があり最初はマズローの欲求段階説について書こうと思っていたのですが、先生から、これについてはすでにいろいろな研究者が論文を出していて、研究成果として出ているので、再度考察するのは難しいとアドバイスをもらいました。ではと次に考えたのが刑法についてです。これもテーマにするのは大きすぎるので、もう少し絞ったほうがいいということになり、犯罪論について調べることにしました。しかし犯罪論自体ではなく犯罪者に興味を持ったので、犯罪者の心理を考察することにしました。

一大変なことはなんですか?

小) 今の時代の文字が持つ効果につい

て調べたいのですが、文献・資料がないんです。どうやって資料を探したらいいか、どういう道筋の論文を書いていったらよいか、まだ先が見えないので心配で不安です。

新) テーマは見つかってなんとなくこんな結論にというイメージはありますが、何人かの犯罪者を自分なりの考察で描いてみたいと思っているのですが、誰について考察するかを迷っています。それによって内容の厚みも違ってくるし、ちゃんと自分の思っている結論に辿りつけるのかもわからないので。

一卒論を高校でやることについてどう思いますか?

小) 今は大変の一言(笑)。普通は大学でやるじゃないですか。高校で論文を書くところはあまりないと思うので、先取りしてやっていると思えば必要かとも思いますが、やっぱり今はちょっとしんどいです(笑)

新) 他校の友達が大学受験に向けて準備をしているんですが、受験に苦しんでいる様子を見ると、自分の興味があるものを勉強できることが幸せに感じます。たしかに論文は大変だけど、僕はこっちのほうがいいかなって。

一ありがとうございました。いい論文が仕上がるように頑張ってください。



〈左:新井君、右:小曾根君〉

小曾根君の自由選択科目	
月	書道表現演習
火	なし
水	美術
木	数学Ⅲ a
金	卒論演習
土	数学Ⅲ a

新井君の自由選択科目	
月	なし
火	調理科学
水	食物学
木	出版文化を考える
金	卒論演習
土	平安時代の闇を解く

先生に聞きました

自由選択科目「日経サイエンスを読む」を担当している理科の林壮一先生にお話しを伺いました。

—「日経サイエンスを読む」とはどのような講座なのでしょう？

「日経サイエンス」という科学雑誌を読んで、その内容に関連したことを発表するという輪講形式の講座です。授業は、毎月の授業を発表準備の前半2週と発表・ディスカッションの後半2週にわけて進めています。具体的には、月に1冊ずつ自宅に配本される日経サイエンスを読んで、各自が調べてくる記事を決定します。その後、約2週間かけて発表（プレゼンテーション）の配布用資料を作ったり、パワーポイントでのプレゼンテーションの作成を行うなどの準備をします。授業時間だけでは足りませんので、自宅で準備をしている生徒も多いと思います。後半の2週で10～15分程度の発表を行います。自分が発表していないときには、他の生徒の発表を聞いて、リアクションペーパーを書いたり、疑問点などについてディスカッションをします。生徒達のディスカッションが深まるかどうかは、発表者の準備次第ですから、しっかり準備をして欲しいですね。

—なぜ日経サイエンスを教材に使っているのですか？

この雑誌は一般の人が読める科学の啓発雑誌です。さすがに専門誌は高校生には難しいですが、これであれば読むことができます。もちろん専門用語も多いので、解説をして抵抗感をなくすことも意識していますが、「自分で調べれば、科学の最先端も理解できる」という体験を通じて、「分からないことは自分で調べて読んでみよう」という自発的な学習活動への変化を期待しています。もちろん、このような学習経験は、科学を身近に感じるきっかけになると考えています。



—発表ではどのようなことをするのですか？

その研究の目的は何か、どのような手法を使ったのかなど、科学の論文であることを意識してまとめるように指導しています。ただ記事の要約ということではなく、記事の内容を踏まえて自分が興味や疑問を持ったことまで踏み込んで発表してもらいたいと思っています。

—この講座でどんなことを学んでほしいですか？

いろいろありますが、やはり『科学』に対して将来に渡って、継続的に興味を持ってほしいということです。『科学』は受験のためや試験のためにあるものではなく、生活の中で生きていくものであり、そのことに注目して欲しかったのです。学校で学んでいる理科（科学）が、最新の科学のベースになっているということを実感し、また、身近な科学が最新の科学に繋がっていることに気づいて欲しいと思います。

—なぜこの講座を始めようと思ったのですか？

3年前からC選択でこの講座を始めました。もともと自分の中で、科学をいかに啓蒙的にできるかということが問題意識としてあったからです。以前、新聞等でも話題になったことですが、成人に対する科学的な常識に関するアンケートの国際比較の結果で、日本人の知識が他の国々よりも圧倒的に低いと指摘されたことがありました。しかし、PISA調査(OECD生徒の学習到達度調査)では、日本の中

高生の科学的知識は世界の中でトップクラスです。ではなぜ、大人になると低くなってしまっているのだろうか。これを解決するのが学校教育の役目の1つだと思っています。

—この講座で印象的だったことはありますか？

昨年、英国ケンブリッジ大学で行われた科学のサマースクールに生徒とともに参加しました。その中の一人がこの講座を履修していたのですが、偶然、現地で講義を担当してくださった天文学の先生が日経サイエンスに記事を書かれていたことに気付きました。その生徒は、帰国後にケンブリッジ大学の先生が書いた専門書を参考にしながら、日経サイエンスの記事についてとても良い発表をしました。彼のように、日経サイエンスがきっかけになって、研究者に直接出会える経験を持てるのは、貴重な経験だと思います。

—今後こんな授業をやりたいということはあるですか？

自分たちが読んだ記事を書いた人が目の前で話をしてくれると、もっともっと科学を身近に感じられるようになると思います。日経サイエンスに記事を書いている研究者を授業に招いて、特別講義のようなことをお願いできるといいな、と考えています。また、高校生が中学生向けに記事の紹介をしたり、発表をするような機会を作るのも双方にとって良い学びあいの場になるだろう、と考えています。



〈7月25日 発売号〉



〈生徒作成の発表用資料〉

自由選択科目思い出話

本校では、選択制度は昭和45年(1970年)より始まりました。当時本校の高校3年生として、始まったばかりの選択科目を受講していた野村先生にお話しを伺いました。

一過去の記録を見ると、選択制度の導入は急に教員間で話が起り、具体化されたようですが、当時生徒としては選択制度の導入はどのような印象でしたか？

野村先生：当時の文部省は昭和48年から選択制度を採用するようになっていたくらいなので、当時の高校では、本校の選択科目制度の導入は画期的だったと思います。

一野村先生は何の講座を受講したのですか？

野村先生：私は理学部への進学を考えていたので、「数学Ⅲ」と「物理」です。それまでは全てが必修科目でしたから、それまでと違って理系進学を考える生徒だけで授業を受けることができ、良い授業になったという記憶があります。

一記憶に残る思い出はありますか？

野村先生：今の自由選択科目は1・2限での設定になっており、受講しない曜日は3限からの登校になっていますが、当時の選択科目は、1・2限だけでなく3・4限に設定されている曜日もありました。このため、その曜日の講座を受講していない生徒は、2時間丸々空き時間になっており、自由な時間を過ごした思い出があります。

一選択科目で印象に残っている講座などはありますか？

野村先生：自由選択科目開始からほどなく始まった「計算機」という講座でしょうか。パソコンの講座ですね。当時パソコンはまだ全然普及しておらず、大学でもそのような講座はあまりなかったと思います。それを高校の選択でやってしまうというのは、すごいことだと思っていました。

野村先生：自由選択科目開始からほどなく始まった「計算機」という講座でしょうか。パソコンの講座ですね。当時パソコンはまだ全然普及しておらず、大学でもそのような講座はあまりなかったと思います。それを高校の選択でやってしまうというのは、すごいことだと思っていました。

卒業研究論文

卒論について

卒業研究論文は「テーマをもって真理を探究する力」「豊かで的確な日本語の能力」を育成するという、本校の教育目標の集大成として位置づけられたものであり、卒業要件また立教大学への推薦要件の一つでもあります。

生徒達は、2年次3学期より担任の指導のもとでテーマ設定及び資料集めなどの準備を始め、3年次4月に卒論作成の主軸となる卒論講座(卒論対応講座・卒論演習講座)を選択します。その後はそれぞれの講座担当者を主査として個別に指導を受け、9月末の仮提出を経て、11月初旬に最終的に完成したものを提出します。

限られた時間と環境のなかで、論文作成のプロセスを一から学びつつ、論文を完成させるのは容易なことではありません。しかし、そうした過程をふまえることで、論文を1ページ書くのにどれほどの労力を費やさなくてはならないか、またそれを的確に記述するためにどれだけ細心の注意を払わなくてはならないか、など、見えてくるものがあると思います。そうした研究活動の一端を経験してもらい、将来にわたる研究能力と自己表現力の向上をはかってほしいと願っています。

卒業研究論文実施委員会 田中 俊江

卒論演習について

授業での先生と生徒のやりとりを紹介します。

先生：「先輩の論文で最高評価のSがついた論文を読んで、内容の掘り下げ方や書き方を模範にしましょう。」「タイトル、副題、目次と概要を約1,300字(本論文の10分の1サイズ)で書きましょう。」生徒：「書いてきました。」先生：「論点は何ですか?」「調べ学習になっていませんか?」生徒：「はあ、まだ調べ学習の域を出ていないですね。」先生：「問題意識をしばって、論点を2つに。」「文献からの引用部分と、自分独自の考察を区別して書く。」「考察した根拠を示す。」「アンケートや実験から何を読み解くか。」

こうしたやりとりをしながら、生徒は論文作成過程で課題を解決し、論文の完成度を少しずつ高めます。1月にはプレゼンテーションをしています。

論文例を挙げます。『日本の消費税問題とその解決法ー逆進性・課税対象ー』(2009第7集)、高校生が内閣府に提案するつもりで書き進め、日本と諸外国の消費税を比較して考察し、S評価でした。『日本における韓国人アイドルのこれからの未来ー韓国人アイドルによる「フック」とストーリー性のあるダンスがもたらす人気の秘密と世界進出への可能性についてー』(2012第10集)、韓国語を選択科目で学びハンゲルでタイトルと目次も書きました。

高校時代の集大成としての卒論作成は、生徒の成長が楽しみな科目の一つです。

2012年度高3C選択 卒論演習担当 古田 豊

卒業生に聞きました

2011年度卒業生の廣濱大理さんは昨年度、「次世代エネルギーの追求～CO-EXにおける脱原発の是非～」というテーマで卒業研究論文を書き、高い評価をされました。今回は、卒業研究論文や進路についてなど、いろいろな話を伺いました。

一このテーマはどのように決めたのですか？

卒業研究論文でS評価をとることは決

めていたのですが、テーマは自分の書きたいものなら何でも良いと思っていました。論文にも書いていますが、私の夢は

世界平和です。そのための活動は大学生になってからと考えていました。ですが、震災後にその考えは変わりました。焦り

のようなものがあり、いてもたってもいられなかった。それで、この卒業研究論文を夢への第一歩にすることを決めました。書きたいことは世界平和についてと決まっていたのですが、漠然としているし、範囲が広過ぎる。例えば、戦争や差別、貧困など一つを取り上げたとしてもテーマとしては大き過ぎるものばかり。それとも、それらの改善に共通する真理的な、本質的なことを書こうかなどと悩みました。その結果、まず日本で今一番最初にすべきことを考え、このテーマにしました。

—すぐにテーマは決まったのですか？

いいえ、先程述べたようなことを長い間悩んでいたのが、結局テーマが決まったのは8月終わりです。

—大変だったことは何ですか？

テーマが決まるのが遅かったので残されている時間が少なかったことです。そして、個人的には派生し過ぎないようにすることですね。色々と思うところがあるから、気付いたら、膨らませ過ぎている時がよくあったんです。後は、純粹に書くこと。文章を作るって大変なんですよ(笑)たった一文字で意味は変わりますから。

—卒業研究論文にはどういう気持ちで取り組んでいたのですか？

やるしかない！という気持ちですね。夢の第一歩であり、自分の掲げた目標です。おれがやらなきゃ誰がやるんだ！という使命感もありました。そして、私は、観想が好きでした。だから、日常生活で疑問に感じたことについてや、本や映画、歌などの作り手のメッセージが込められている作品を通して思考してきました。その内に自然と独自の考えというものもでき、それを誰かに伝えたいと思うようになりました。伝えるということは私にとって大切なことなんです。卒業研究論文も同じです。

—それで進路も文学部文学科文芸・思想専修をえらんだのですか？

そうですね。自分からしたら当然のことです。思考すること。できるだけ多くの者に自分の考えを伝えること。直接でもいいし、媒体を通してでもいい。何かを感じてもらう。この進路以外ないと思っ

て選びました。

—いつごろからそのように考えていたのですか？

高1から考えていました。でも、進路のことは高3になってからですね。少しは悩みましたし。政治やメディアの分野も考えました。ただ、何かを変えようとするなら方法はいくらでもあると思いました。そして、そういう方法を生み出すのも理性ですし、人の力の根源です。文芸思想専修は人の力の根源を鍛え、学ぶところだと思っています。先に就職のことなどは考えたりせず、とにかく今、自分がやりたいことをやりたかったし、それが後に仕事になれば一番良いと思っていました。

—論文のことに話を戻しますが、この卒業研究論文で伝えたかったことはなんですか？

いつも通り考え事をしていたある日、人類が生きる意味を考えていました。答えは出なかった。だから起源に戻って考えてみました。人類が誕生してから最初の目的は何だろう。存続です。ただ生きることです。そこに意味があろうが無かろうがまず、生きてみることです。じゃあ生きるために必要なことは何だろう。当然、人は一人では生きていけない。お互いに助け合ってこそ生きられる。ただ、それは人と人との間のことだけじゃない。人、動物、植物、自然、全ての関係に言えることだと思います。共に生きること。そして、その環境こそが世界平和です。人類の共通の目的は世界平和であり、人類が生きる意味は世界平和の先にあると思っています。それができなければ減るだけです。

それでも別にいいというような、自分が生きている時だけのことしか考えることのできない人がいるから世界平和が実現しない。続いていく自分の子どもたちのことを考えればそうとは言い切れないはず。もっと長い目で見なければなりません。この卒業研究論文ではいかに現在の人間が自らのことしか考えられていないかを露わにしました。世界の目的が経済発展であるかのように考えてしまう今の人の心はおかしい。向かうべき場所が間違っています。生きる目的が間違ってきています。エネルギーとはなんですか。本来、生きるためにそんなに必要なものなのでしょうか。政府もメディアも原発推進派も脱原発派も原発自体も自然エネルギーも人中心の考え方でしかないです。強く主張したいのは、逆に言ってしまうと本当に人間自らのことを考えるならば他を思いやれということです。当然、動物や植物のことも。特に軽視されがちな植物。植物だって生きています。森林伐採の光景は動物をマシン

ガンで撃ち殺しているのと同じだと思えますよ。他には人と動物だけを同等としている場合の草食主義も。顕微鏡で見なければ命を感じられないようじゃ駄目なんです。生きるということは、人、動物、植物、自然が助け合うということです。そんなことくらい当然のこととして分かっているなければいけないことなんですよ。この作品を通して現在の状況に疑問を持ち、変えていかなくてはと感じてくれる人が一人でも多くいてくれると嬉しいです。

—多くの文献を調べたように感じますが、大変ではなかったですか？

多少は大変ですけど、目標のためならそれくらいやります。自分自身知りたい欲求もありますし、興味のあるテーマだからそれほど苦ではなかったです。本を取った時に、作者の意見が偏っているかどうかくらいを分かっていたら文献探しはスムーズにいくと思います。

—一気にしたこと注意したことなどはありますか？

問い、議論、結論で構成されるのが論文だと恩師である高瀬修二先生に教わったのでそこは気を付けました。あと、専門用語が多いテーマなので、誰にでも解り易いような言葉で書くことを意識していました。

—最後に、これから卒業研究論文制作に取り組む後輩に一言お願いします。

何か伝えたいことがある人はそのために、何か目指すものがある人はそれに役立てるために、何も無い人も何でもいから興味があるものについて、要は余程他に優先するものがない限り全員、本気で取り組めばいいのではないかと思います。自分の思考の整理にもなるし、将来が見えなくて不安な人も何か新しく見つかるかもしれない。何事にも言えるけど、仮に自分の望む結果が出なくても努力相応分には必ず得るものがある。私たちは未来の担い手です。未来は無であり、私たちは自由です。これから好きなように何だって創れます。世の中改善させていくために今、思考を駆使していきましょう。期待しているし、応援しています。



チャペルだより

「選ぶ」ということ…

本校には数多くの選択科目がある。これは本校の特色の一つであり、一人一人に合った教育を実現する目的のもとに行われていると言うことが出来るだろう。

旧約聖書の出エジプト記から申命記までを読むと、モーセを指導者として60万人の人々が、40年にわたり荒野を放浪した、出エジプト物語が記されている。イスラエルの民(ヘブライ人)は、エジプト人から過酷な労働を強いられて苦しみ、自由を求めた。神はそれを聞き、以前住んでいたカナンへ戻っていく旅だった。エジプトからカナンまで最短の道を行けば約1箇月で到達で

きるが、神は40年という長い旅へ人々を導いた。『さて、ファラオが民を去らせたとき、神は彼らをペリシテ街道には導かれなかった。それは近道であったが、民が戦わねばならぬことを知って後悔し、エジプトに帰ろうとするかもしれない、と思われたからである。神は民を、葦の海に通じる荒れ野の道に迂回させられた。』(13章17節から18節)と書かれている通りである。

しかし、人々は困難に遭遇する度にモーセへ不満をぶつけた。目的地を視察してみたら、自分たちが留守をしている間に住み着いたカナン人がおり、これと戦わなければならないと知った時もそうだった。「エジプトの国で死ぬか、この荒れ野で死ぬ方がよほど良かった。どうして、主は我々をこの土地に連れて来て、剣で殺そうとされるのか。妻子は奪われてしまうだろう。それくらいなら、エジ

プトに引き返した方がましだ。」(民数記13章27節から14章3節)彼らは奴隷生活によって心がすっかりくじかれていた。神はこのような民に対し40年という長い旅をさせ、奴隷から本当の意味で逃れられなかった民には一人も目的地を踏むことを許さず、「砂漠で育ったイスラエル」の誕生を待たれた。出エジプトは極めて厳しい旅であったと言えよう。

この物語は、「自由には責任が伴う」ことを語っている。自分の「選び」には責任があり、その責任は達成するまで続くのである。「選ぶ」のが自由なら「やめる」のも自由だなどと誤解しないでもらいたい。そして責任を持って自らの学びを選択し、各々の努力のもとに、立派な「学びの実」を結んでもらいたい。

チャプレン 鈴木 伸明

行事予定～中学校～

7/20(金)	1学期終業礼拝(夏季休業～9/4)
21(土)	1年社会科校外学習①
24(火)	1年社会科校外学習②
8/2(木)	米国サマーキャンプ(～14)
16(木)	清里環境ボランティア(～18)
9/5(水)	2学期始業礼拝 宿題試験
15(土)	運動会
30(日)	学校説明会
10/2(火)	朝霞地区大会(～3)
14(日)	英語検定(学内受験)
16(火)	中間試験(～17)
27(土)	S.P.F.(文化祭)(～28)

行事予定～高校～

7/20(金)	1学期終業式(夏季休業～9/4)
27(金)	豪州短期留学(～8/19)
8/3(金)	英国サマースクール(～21)
16(木)	清里環境ボランティア(～18)
27(月)	榛名ボランティアキャンプ(～30)
9/4(火)	認定試験
5(水)	2学期始業式 宿題試験
30(日)	学校説明会
10/4(木)	1年対象大学特別授業
14(日)	英語検定(学内受験)
16(火)	中間試験(～17)
27(土)	S.P.F.(文化祭)(～28)

新本館・新体育館等建設について



〈完成イメージ〉

本校カリキュラムの特色である多彩な選択科目と、習熟度および少人数授業をさらに推進する校舎を建設します。多様化する授業形態に対応する最新の設備を備え、生徒の学校生活環境の向上を図ります。

また、総合体育館についても正課外活動の活性化をより一層図ります。

竣工：2014年4月予定

建物概要：本館校舎 地上4階 延べ床面積約9,400㎡

総合体育館 地上2階 延べ床面積約4,000㎡

Campus News Rikkyo Niiza 第58号

編集：立教新座中学校・高等学校 教務・入試広報課

発行：立教新座中学校・高等学校

〒352-8523 埼玉県新座市北野1-2-25 ☎048-471-2323(代表)